

1. 計画策定の背景・目的

- 本町の小学校5校・中学校2校は、**学校施設の老朽化が進み、将来の児童生徒数も減少の傾向**
- 9年間の連続した学びの環境をつくるため**、全ての小中学校を統合し、小中一貫校の設立を目指す
- すべての児童生徒が通学する**魅力ある小中一貫校を、日本福祉大学美浜キャンパス内に設置し**、本町の特色を活かした「新たな学校教育の創造」を目指す

2. 計画策定の経緯

○学校施設の課題を3点に整理し、構想・計画を策定

【課題】 ①児童生徒数の減少に伴う学校小規模化 ②学校施設の老朽化 ③町の財政不足

- 【構想・計画等】
- ▶美浜町小中学校再編のための基本構想（平成30年3月策定）
 - ▶美浜町小中学校再編実施計画（令和2年3月策定）小中一貫校の方針を示す
 - ▶夢づくりワークショップ（令和4年10月～令和5年1月）
 - ▶学校づくりワークショップ（令和5年10月～令和6年1月）
 - ▶美浜町小中一貫校整備基本構想（令和6年3月策定）

○日本福祉大学美浜キャンパス内を計画対象地として、**美浜町小中一貫校基本計画を策定**（令和7年3月）

3. 将来児童生徒数、クラス数

○小中一貫校の開校を予定している令和12年の児童生徒数・学級数等を推計

| 学級 | 小学校 | 中学校 | 計 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|------------|------|
| 通常学級 | 511人・18学級 | 357人・12学級 | 計868人・30学級 | 986人 |
| 特別支援学級 | 70人・9学級 | 48人・7学級 | 計118人・16学級 | |

※小学校の在籍児童数令和6年度の0歳～5歳の住民登録者数（令和6年5月1日現在）

中学校の在籍生徒数は通常学級・特別支援学級とも令和6年度の小学校1年生～3年生の合計人数

4. 整備する規模・機能

○目標とする延床面積：約13,500㎡（校舎・体育館等）大学施設利用想定面積は除く

○整備する主要機能（抜粋）

| | 室名 | 室数 | | 室名 | 室数 |
|---------|------------|----------|-----------|------------|----------|
| 教室 | 通常学級（小学校） | 18 | 地域・大学連携 | 大学交流スペース | 大学施設利用想定 |
| | 支援学級（小学校） | 9 | | 地域学校協働本部 | 大学施設利用想定 |
| | 通常学級（中学校） | 12 | | 放課後児童クラブ | 大学施設利用想定 |
| | 支援学級（中学校） | 7 | 職員室（小中合同） | 1 | |
| | 少人数教室 | 9 | 管理 | 校長室 | 2 |
| 特別教室 | 理科室 | 2 | | 職員会議室 | 1 |
| | 音楽室 | 2 | | 通級指導教室 | 6 |
| | 美術室 | 1 | | 相談室 | 2 |
| | 図工室 | 1 | | 給食室 | 1 |
| | 技術室 | 1 | | 教材作成スタジオ | 1 |
| | 調理室 | 1 | | 校内教育支援センター | 2 |
| | 被服室 | 1 | | 日本語指導教室 | 1 |
| 図書・メディア | 学校図書室 | 1 | 運動施設 | 大体育館 | 1 |
| | 多目的室・多目的教室 | 大学施設利用想定 | | プール | 大学施設利用想定 |

5. 整備水準

(1) 全体配置計画

- 施設は隣接する大学・高校の利用可能な屋内外施設との連携、円滑な移動を配慮した配置
- 地形や地盤状況を十分に把握し、**災害に対する安全を確保**できるよう配置
- 地域住民との交流が円滑かつ効果的に展開**できるよう、地域住民等の利用の動線や交流の場について考慮し外部からも利用しやすい配置計画

(2) 小中一貫校としての計画

- 9年間の系統性・連続性のある教育活動を踏まえ、**小学校段階からの教科担任制の導入や乗り入れ授業が円滑にできるように配置**
- 学年の区切りに対応した空間構成とし、**区切りごとに児童生徒の発達段階にふさわしい教室環境**
- 廊下や階段などの移動空間、中庭や広場などの屋外空間、登下校時のアプローチ空間などは**異学年交流を促す空間を計画**

6. 施設配置検討

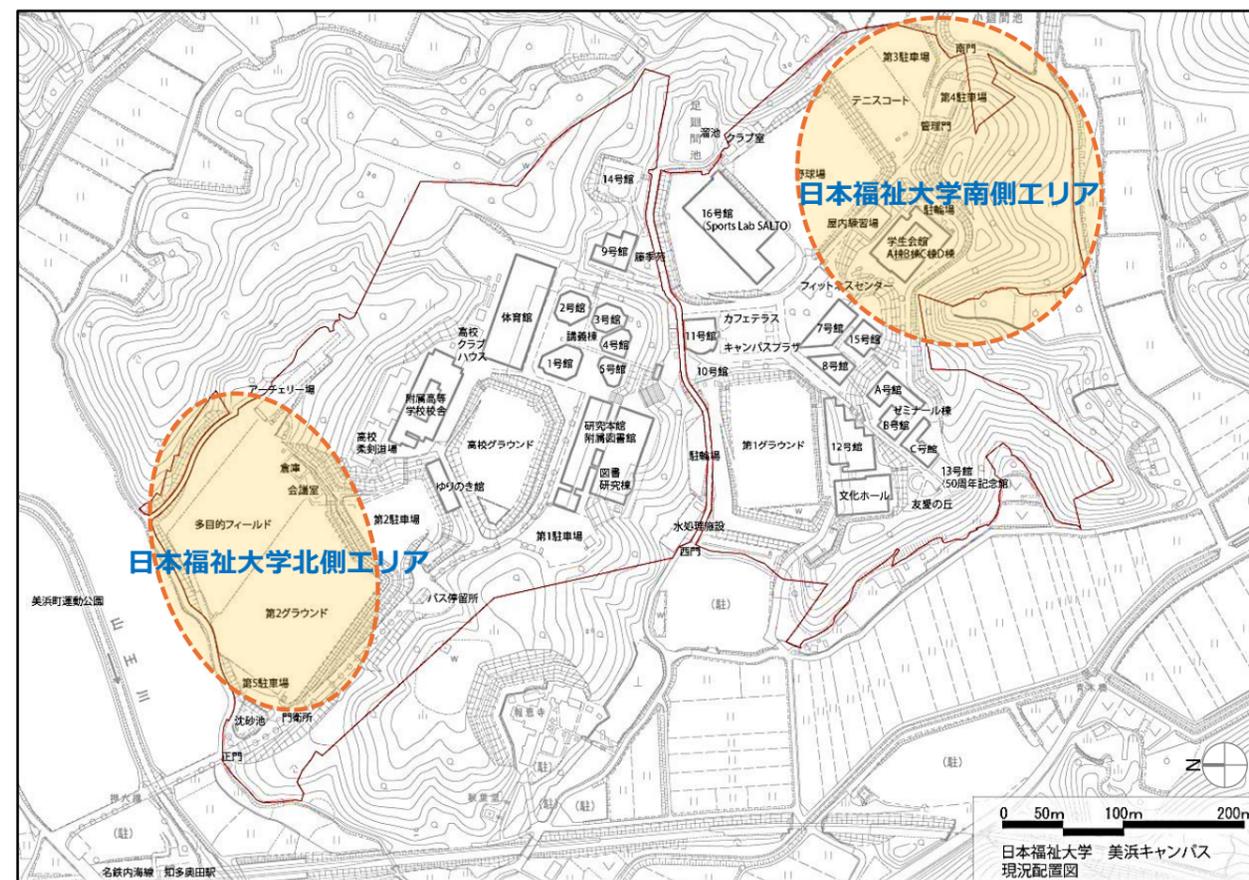
○配置案は、日本福祉大学美浜キャンパス敷地内の南側エリア及び北側エリアの3案について検討

▶日本福祉大学南側エリア【配置案①・配置案②】

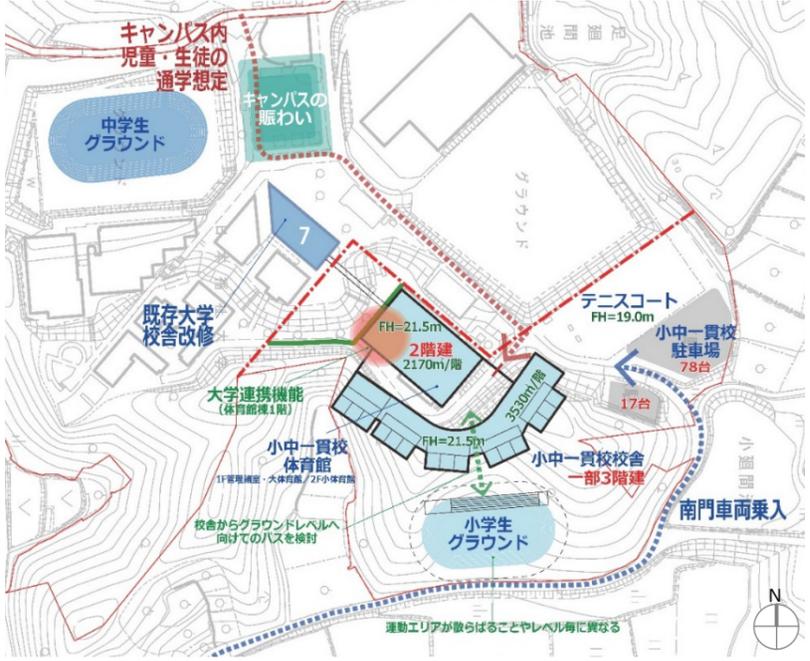
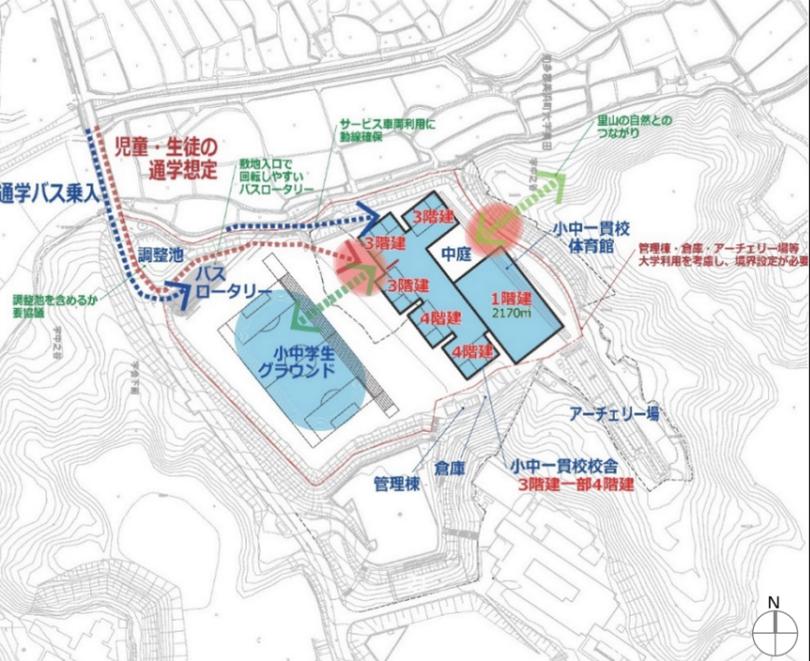
- ・現在の学生会館の場所を中心に、南側斜面地、駐車場等を学校敷地として利用
- ・7号館・8号館・15号館を対象候補として、既存大学校舎の改修利用を想定

▶日本福祉大学北側エリア【配置案③】

- ・第二グラウンド・多目的フィールドを対象として小中一貫校の配置を検討



7. 基本計画（配置検討・事業スケジュール・概算事業費）

| | | 配置案① 校舎を学生会館跡地に計画 | 配置案② 既存テニスコート継続／体育館棟を学生会館跡地に計画 | 配置案③ 第二グラウンド・多目的フィールド | |
|----------|--|--|---|---|--------------------------|
| 配置検討図 | |  |  |  | |
| | 特徴・課題等 | 配置 | ・限定的な配置となる | | ・フラットな敷地のため複数の配置検討が可能である |
| | | 環境 | ・計画地が小さいため、校舎の高層化が必要である ・知多奥田駅から1km程度の距離がある | | ・知多奥田駅に近く、アクセスが良い |
| | | 大学連携 | ・大学との連携が図りやすい | | ・大学校舎エリアから離れるため連携が難しい |
| | | 施工性 | ・南側の傾斜地により施工が難しい | | ・施工計画がしやすい |
| 造成 | ・造成費が高む | ・造成費が大幅に高む | | ・造成費を抑えることが可能である | |
| 事業スケジュール | ・従来方式：設計・建設工事 計5ヶ年 ・DB方式：設計から建設工事 計5ヶ年半 | | | ・従来方式・DB方式共：設計から建設工事 計5ヶ年 | |
| 概算事業費 | ・約98億円 | ・約105億円 | | ・約83億円+グラウンド整備費（代替地）+駐車場整備費 | |

※配置案①②は、多額の造成費がかかり、配置案③は、現在大学や付属高校が使用しており、現状として大学と協議できる段階ではないため、本計画に掲載する配置案はいずれも困難と判断しました。今後は、大学敷地内を含む町内の実施可能な候補地を改めて検討していきます。

8. 今後の課題

(1) 通学方法の検討

○現在、美浜町の小学校では徒歩とスクールバス通学、中学校では徒歩と自転車通学であるが、本計画における小中一貫校（日本福祉大学美浜キャンパス内）への通学方法は徒歩、自転車、スクールバス、電車を想定

| 地区 | 通学方法 | |
|------|--------|-----------|
| | 小学校 | 中学校 |
| 布土 | スクールバス | スクールバス・電車 |
| 河和 | | |
| 河和南部 | | |
| 野間 | 徒歩 | 徒歩・自転車 |
| 奥田 | | |
| 上野間 | | |

(2) 引き続き検討していく課題事項

- 今後も日本福祉大学との協議を継続し、大学との望ましい連携のあり方等について検討を継続
 - ▶建設地の合意形成、事業手法の決定
 - ▶市街化調整区域における建設事業の推進（大学及び関係機関との継続協議）
 - ▶小中一貫校と大学との連携内容、推進方策
 - ▶小中一貫校と地域との連携
 - ▶各施設の運営を考慮したセキュリティ計画の検討（小中一貫校と大学の区分）
 - ▶校舎建設時における大学キャンパス内の動線計画
 - ▶保護者送迎対応
 - ▶エコスクールを目指した取組
 - ▶維持管理等のライフサイクルコスト削減の実現に向けた考え方
 - ▶開校時期を考慮した工期短縮の検討